

むすんでひらけ

札幌むすびば窓口便り 第17号



2013.02.18 発行
TEL 080-5720-0891
Email: info@shien-do.com
編集・むすびば受付チーム

うけいれ全国第5回運営会議を三重で開催

三重県では中小企業同友会が 住宅・就労を支援

むすびば共同代表・富塚 廣

むすんでひらけ 17号 内 容

- ・311 受入全国協議会
 - ・四日市会議報告 … 1
- ・伊勢市長懇談会報告 …… 2
- ・あぶくま日記 …… 3
- ・キッズハウス第1回活動報告 4

全国の受入れ団体と被災地で暮らす人々、そして各地に避難している人たちをつなぐネットワークとして、昨秋発足した「3.11 受入全国協議会」(略称/うけいれ全国)の第5回運営会議が2月26日、「うけいれ全国」共同代表・木田裕子さんが主宰する母子疎開ネットワーク「hahako」の活動地である三重県四日市市で開催されました。むすびばからは、私が参加しました。

会議には全国から16団体20名のメンバーの他、オブザーバーでゴーワークワクキャンプ(京都)、びわこ123キャンプ(滋賀県)と三重県中小企業家同友会のメンバーら7名が参加しました。

最初にうけいれ全国の活動について、「8つのワーキンググループがあり、運営団体はそのうちの1つ以上に参加すること。2~3ヶ月に一度運営会議を行い、その間の細かいことは共同代表+事務局によるスカイプ会議などを決めてい



(写真は、ホテルの窓から見えるコンビナートの煙突)

る」との報告確認がありました。

続いて、ワーキンググループ毎の議題に沿ってすすめられました。主だった点のみ報告します。

新規の公的住宅支援が打ち切られて(移住疎開G)

新規の公的住宅支援が年末で打ち切

られたことによる今後の対策が話し合われました。

①自治体の独自措置をソカイノワ(<http://sokainowa.jimdo.com/>)にまとめて掲載している。さらに移住支援の全国状況を調査し、各団体が地元自治体に働きかけていく。(例えば、四国四県は災害救助法に基づいているのでは

むすびば311フォーラム

みつめなおす福島 それぞれの選択

高村美春さん講演会

南相馬市で声を上げ続けている

パネルディスカッション

福島在住者、北海道避難者、支援者による

3月11日 18:00 ~ 21:00

札幌エルプラザ 4階大研修室

住所: 札幌駅北口正面(北海道札幌市北区北8条西3丁目)

主催 東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌 むすびば

むすびば2年のあゆみ

パネル展

+キルト・あすへのてがみ展



3月10日より17日まで

パネル展は2Fエレベーター前の交流広場にて
キルト展は2F市民活動サポートセンター内にて

17日は、ビデオ上映、みさんが実演も予定しております。

なく自治体独自にうけいれをしているため、打ち切りは関係がない。四国二県は受け入れ対象を福島県に限定しない。岡山県は打ち切りだが岡山市は延長などと市町村レベルで異なる。)

②借り換え問題(災害救助法は公的な住宅支援は一度だけ)も香川は一部



OK。山形から岩手に二度避難が可能だった例もあり、自治体によって対応が異なる場合もある。

③今後必要になってくる空き家や住宅の提供については、三重県中小企業同友会から貴重な報告がありました。三重では、生活支援はボランティア、住宅や就労支援は企業側と役割分担し、使われなくなった社宅などを無償提供している。中小企業は動きやすく、社宅提供でのコスト面の負担も少ない。中小企業家同友会は全国にあるので、各地で働きかけてはというアドバイスもありました。就労面では、母子避難が多いので、子どものことでの早退や欠

勤、特別扱いされていると見られたり、職場でのトラブルが発生している。そうした対策も今後、必要との指摘がありました。

ほよ〜ん相談会ホームページの充実について(広報G)

全国の保養情報を網羅した「ほよ〜ん相談会」HPについては、当事者の方たちが見やすいように内容のアップデートと形式の見直しが必要。紙版の必要性は理解しつつも、最新版で常備することは労力的に不可能なため、印刷用のレイアウト表示ができるように対応し、被災地のなかで口コミでの拡散がしやすいようにする。伊達市と二本松市は市のHPに載っている。

2月の相談会について(相談会G)

2月23日いわき市、24日那須塩原市にて保養相談会を実施します。相談

会活動で、初めて、いわき市と那須塩原市にうかがいます。NHKスペシャル「空白の初期被ばく」でいっそう明らかになってきたように、汚染はこれまで注目されてきた「福島県中通り」ではなく浜通りから宮城県方面と関東方面に拡散していています。いわき・那須での相談会はとても重要な取り組みです。

今回、「いわきの子どもを守るネットワーク」と「那須塩原放射能から子供を守る会」の両団体から地元でのお手伝いをいただけることになり、今後の連携が期待できます。

私からは、相談会での総合窓口の設置と受付カードに記入してもらい、事後も情報提供をしていくことの必要性について意見を申し上げてきました。

<追記>

会議が終わって、外に出ると空気が乾いているせいか、北海道より寒く感じました。夜の交流会には、地元の支援ネットのサポーターの皆さんも加わり、楽しくにぎやかな会になりました。途中での席替えもあって、多くの人と話すことができました。終わって外に出ると、なんと北海道から持ち込んだかのように、雪がうっすらと積もっているではありませんか。人口30万人の四日市市は県下最大の都市ですが、県庁は津市にあります。四日市はコンビナートからの排煙による「四日市ぜんそく」でも有名な公害の街でしたが、法規制がすすんだ今日では大気の状態も良好とのこと。

伊勢市長と避難者の懇談会

避難者の終わらない苦しみ

共同代表・富塚 廣

「うけいれ全国」運営会議の翌日、四日市市から電車で1時間ほどの伊勢市で「市長と避難者の懇談会」が行われた。

運営会議に参加する私は、そのあと伊勢市に足を伸ばして、一昨年札幌協働福祉会主催の夏休み保養(仁木町“山の家”)に参加し、その後伊勢市に避難したT君に会いにいくつもりだったので、懇談会にも出席させてもらうこと

にした。T君のお母さんに電話するとお母さんもその懇談会に出席するとのこと、実にいいタイミングで再会の場が持てることになった。

この懇談会は、保養キャンプや避難者の受入れ、被災地への野菜の支援などを行っている「ふくしまいせしまの会」(代表・上野正美)が主催した。

伊勢市長って、どんな人?

昨年も懇談会を実施したという伊勢の鈴木健一市長はどんな人が調べてみると、まだ1期目で30代の若い市長。「脱原発をめざす首長会議」のメンバーで、避難者支援にも積極的な政治家だった。

会場は伊勢神宮の外宮前にある市民活動サポートセンター。懇談会には4家族8人の避難者と「うけいれ全国」側は私、北九州“絆”プロジェクトの谷瀬さん、「福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト」の伊藤ご夫妻が参加した。

残念ながらT君は部活があるので来れず、お母さんから携帯画像でT君の少しスリムになった最近の様子を見せてもらった。

4家族8人の避難者が出席

懇談会では、避難者1人1人が日頃思っていることなどを話された。

千葉県東葛地区から避難した方は「ペランダで線量が1.5 μ s/hあった。主人の理解が得られず母子で避難してきた。1年経つが、子どもが病気のときなど一人で子どもの面倒をみるのがつらい時もある。食べ物や空気など不安はないが、住民票を移していないので、託児を断られた」。

実家に避難、両親からは「帰れ」と言われ・・・

同じ千葉の柏市から避難された方は「妊娠中だったので昨年8月に夫の実家のある伊勢に避難してきた。実家の両親からは早く帰れと言われるが、柏では公園や学校の除染がやっと始まったばかり。二重生活でお金の方が大変」。同席した夫からは「自分も避難できればと思うが転職するのは賭けのようではない」。

先のことを考えると眠れない

郡山市から避難された方はお子さんが3人。「原発の爆発の時、私が働いていたので、水汲みで外に子どもたちを3時間も並ばせてしまった。部活で外を

走ったりして、湿疹や鼻血、喘息がひどくなった。髪の毛が抜けたり、夏休みに高熱を出したり、急性中耳炎にかかったり。伊勢に避難して本当に良くしてもらった。上の方の息子は部活のバスケットができる学校に行かせてもらい、私の働き口も見つけてもらった」。「甲状腺検査の結果、嚢胞(のうほう)が見つかった。私も石灰化したものが2個。東神戸の診療所に母子4人で放射能検査を受けに行ったが、交通費等が4万円。結果を聞きに行くのに2万円。年2回で12万円にもなり、負担が大きい」。「私はうつで仕事を休んでいたが、明日から病欠期間が切れ無給になる。生活保護以外に避難し困っている人への対応ができないか。働いていた娘も原発関係の報道に過敏に反応し、過呼吸になったりして、いまは働けなくなっている。3.11以降、テレビも見たくない。これは経験した人でないと分からない。知らない土地にポツンと来て、孤独感や淋しさに襲われることがある。住宅の提供も来年で終わり、先のことを考えると眠れない。明日から仕事も無理をしてでも出ないといけないと思っている」。

安心できる時間がない

一昨年10月に避難した方は、夫が危機感を持ち伊勢で仕事を見つけ、夫主導で避難移住してきた。「福島からの知合いから、避難したのだからもういいのではないと言われるが、安心できる時間がない。子どもも慣れたとはいえ、



まだ向こうの夢をみるなど揺れている。甲状腺検査を避難先でやっていただければありがたい。福島県から5分で終わるからと案内が来たが、福島まで行けない。神戸の病院を知って、検査を受けてきた」。

素早く市長から避難者へ回答

避難者の終わらない苦しみを切々と訴える1時間だった。鈴木市長はしっかりとメモをとりながら耳を傾けていた。数日後、上野さんから「今日、懇談会での避難者からの質問事項に、市長から私の携帯へ返事をいただきました。対応が早くよかったなあとありがたく思います。これからも市長と連絡を取って避難者の住みやすい伊勢にしていけたらうれしいと思います」とのメールをいただいた。



311 受入全国協議会

<http://www.311ukeire.net/>
全国保養情報 [ほよーん相談会]
<http://hoyou.isshin.cc/>



チェルノブイリ原発事故で故郷を失った人々を描いた映画「故郷よ」は、事故当時と、10年後の人々の様子を描き出しています。改めて、フクシマ問題は長く取り組んで行かねばならぬことを思い起させました。

福島市内での上映後のトークショーで、ミハル・ボガニル監督の「チェルノブイリでは、原発近くの街は、街ごと60キロ離れたところに新たなコミュニティを作った。フクシマでは除染して帰村しようという動きがあるというが、理解できない。」との言葉が重かったです。

あぶくま便り8

福島より

(ほ)

“キッズハウス” 第1回目を終えて

飯田 知樹

キッズハウスとは？

“キッズハウス”は東日本大震災で北海道に避難・移住されて来た子どもたちに「思いっきり遊んでもらうための場」です。そういう場所や催しはこれまでにもいろいろなところで行ってきましてし、私が参加している「うけいれ隊」でも何度も開いてきました。それらとどこが違うのかというと、「グリーンサポート」の研修を受けたスタッフが携わる点にあります。

2011年7月、札幌円山動物園にて

私が「北海道に避難されて来た方々のために自分でも何かできることはないか？」とあってうけいれ隊に参加し始めたのは2011年6月頃でした。そして7月、避難されて来たご家族のレクリエーションとつながり作りも兼ねてうけいれ隊で行った円山動物園での交

流会にスタッフとして参加しました。スタッフそれぞれが2～3家族の担当になり、親御さん同士で交流してもらっている間に子どもたちを連れて園内を回りました。私は自分の子どもも連れて参加して、担当している子どもが迷子になったりしないよう見ながら一緒に歩いていましたが、ある子どもが急にその場に寝転がって動かそうとしなくなりました。困ったスタッフが抱き上げようとしたので、私が抱き上げてしばらくそのまま歩いていくことになりました。

初めて体験した「子どものつぶやき」

10分程歩いた頃でしょうか、抱っこしていた子が私の耳元で何かもごもごとつぶやき始めました。最初はよく聞き取れなかったので「何を言ってるんだろう？」とあっていましたが、しだいにその言葉を聞き取れるようになった時、私はその内容に耳を疑いました。たどたどしい言葉で「ぼく、いえが、ながされるのを、みた」「くるまが、ながされるのを、みた」「ひとが、……」。

ただ「聴くことに徹する」

私は阪神淡路大震災の際神戸に赴き、仲間と「足湯」の活動を立ち上げました。足湯によって体も心もほぐれると、人はポツンポツンと自分のことを語り出すことを、やってみて初めて知りました。その後私は仕事から(私塾主宰)「子どもに寄り添って子どもの声を聴く」ためのトレーニングを積んできました。ですから、抱っこしている子どもがとても重大なことをつぶやいていると感じた時、即座に「ただ聴いてあげよう」と思いました。自分の評価・価値観等を入れないで、「そうか」「そうだったの」「うん」等の反応をするのみで、子どもの言葉を受けとるこ



作業風景

とに徹しました。

どんな子にもある「喪失感」

このように、震災時に衝撃的な体験をしてしまった子どもはもちろんですが、「故郷を離れてしまった」「親しい友だちと離れてしまった」「家族親戚と離れてしまった」「学校が変わってしまった」…そんな体験は多かれ少なかれ子どものグリーン(喪失感・愛惜)として心のどこかに残っているはずです。もしもそれにより「自分が無力だ」と感じたまま成長していったら……。

グリーンサポートの場としてのキッズハウスへ

うけいれ隊にはもともとソーシャルワーカー、心のケア相談員、臨床心理士等の「専門家」も集っていました。私たちは、「遊びを通して自分が受け入れられている実感を持たせ、気持ちを表出し、信頼できる誰かに少し頼ろうと話を始めて」、ゆっくりと次のステップに進んでいけるような場「キッズハウス」を今後も継続していきます。ぜひ一度お子さんを連れておいでください。楽しくホッとできる場にしていきます。この場が必要か、どれぐらいの期間通うことになるかは、お子さん自身が決めていくことになるでしょうから。

むすびば窓口は

各種問合せ・ご相談・情報交換にご利用下さい・・・

札幌エルプラザ(北8西3)2階、市民活動サポートセンター内にあります。

平日 11:00～18:00 オープン。

TEL:080-5720-0891

不在のことがありますので、お電話にてお確かめのうえお越しいただくのが確実です。ご不便をおかけいたします。

お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

